

今年度標語 「ヤコブは次の朝早く起きて、枕にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に油を注いで、その場所をベテル（神の家）と名付けた。
(創世記28:18.19)

2020年11月29日 (No35)

アドヴェント第1主日礼拝

司会 伊藤知之 奏楽: 松村宣恵

前奏 奏楽者
讃美歌 85 (二回) 一同
祈り 司会者
聖書 イザヤ書 2章1~5節 (旧約聖書1063頁)
マタイ24章36~44節 (新約聖書48頁) 司会者
讃美歌 355 一同
説教 「思いがけない時に」 五味 一同 牧師
讃美歌 230 一同
献金と感謝の祈り 一同
主の祈り 62
頌栄 キリストの平和が (1.5) 一同
祝禱 一同
報告 一同

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

◇主日礼拝 午後2時 礼拝堂
◇お茶の会は、コロナウイルス感染拡大防止のためお休みしています。

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会
・12月2日(水) 午後7時
マラキ書 3章6~12
(旧約聖書1500頁)
讃美歌 231、412

【次週の予定】

◇アドヴェント第2主日礼拝
・12月6日(日) 午後2時 礼拝堂
・聖書 イザヤ書59章13~20節 (旧約聖書1159頁)
マタイ13章53~58節 (新約聖書27頁)
・説教 「大工の息子ではないか」 五味 一同 牧師
・讃美歌 231、289

◇第5回定例役員会 12月6日(日)礼拝後

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 秋山里子
④ 佐々木実 ⑤ 吉田公子 ⑥ 伊藤知之 ⑦ 山根耕平 ⑧ 岸澤恵美 ⑨ 高崎晋 ⑩ 山本潔 ⑪ 早坂潔

【集会統計】

集会名	参加者	献金
主日礼拝 (11月22日)	21名 (子1名)	6,237円
祈禱会 (11月25日)	4名	

♪本日の讃美歌♪

♪ 讃美歌355 「主をほめよ わが心」。作詞はイギリス人医師ロバート・ブリッジス(1844-1930)とされていますが、おそらくスコットランド人のウィリアム・キース(?-1600)の詩をもとに作ったのであろうといわれています。キースについて詳細不明。曲もフランツ・ヨーゼフ・ハイドンか、弟のヨハン・ミヒャエル・ハイドンのものか不明です。

♪ 讃美歌230 『「起きよ」と呼ぶ声』。この讃美歌はコラルルの王と呼ばれています。コラルルは聖書の出来事、物語を民衆がよく知っていたやさしい民謡などで歌いました。詞も曲もフィリップ・ニコライ(1556-1608)のものです。キリストの到来を待ち望むこの讃美歌は「バロック時代のもっとも壮大な神への讃美」と呼ばれて、多くの人々に信仰の喜びと慰めを与えてきました。黙示録19:5-10を是非お読みください。(なお、コラルルの女王は276「暁の空の美しい星よ」)。

◇べてる関係報告

- ・11月30日(月) べてる理事会
場所: ニューべてる
- ・12月5日(土) べてる開所
べてるまつりビデオ鑑賞

頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが わたしたちのころのすみずみにまでゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのころのすみずみにまでゆきわたりますように

【先週の説教から】

「自由への招き」

ミカ書 2:12-13

マタイ 25:31-46

「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。」(マタイ 25:31)。すべての人が王の前に集められて右と左に分けられ、右側の人たちは祝福を受け、左側の人たちは永遠に消えることのない火に焼かれる。おお怖わ！。世の終わりとも最後の審判の光景です。幼い日に、「嘘をつくともエンマさまに舌を抜かれる」と、両親に教えられた記憶があります。宗教につきものの応報の教えでしょうか。

「神と人との関係」という信仰の見えない世界を、この世のしるしやシンボル、ことばで表現する手法を黙示文学といいます。世の終わりの到来と最後の審判、或いは激しい迫害のもとにある信仰者の世界(旧約聖書「ダニエル書」「新約聖書「ヨハネの黙示録」)などは、たとえと黙示でしかあらわせないからです。それは天国と地獄、天使と悪魔。想像力と信仰の世界です。

王は、「わたしが飢えていたとき、渴いていたとき、旅をしていたとき、裸でいたとき、病気のととき、牢にいたとき、食べさせ、飲ませ、宿をかし、着せ、見舞い、訪ねてくれた」と、右側の人たちを祝福しました。彼らは、「主よ、いつわたしたちはそのようなことをしましたか」と。すると王は答えました。『わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』(25:40)と。この物語のポイントです。

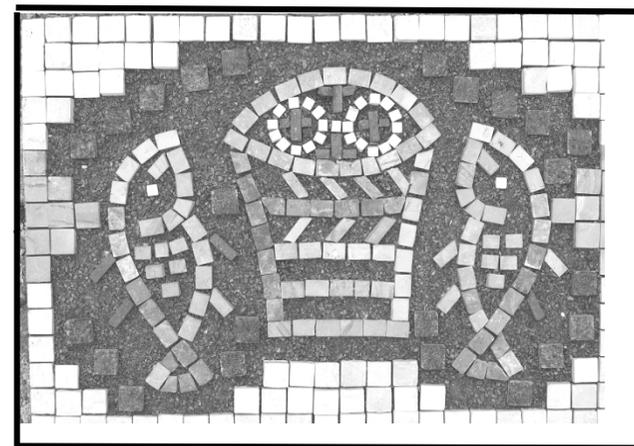
「栄光の座」に着いている「人の子」、「王」、「主」はイエスにほかなりません。食べ物、飲み水、宿、着る物、見舞い、訪問を必要とした「最も小さい者の一人」は、イエスの兄弟。いやいや、イエスその人です。小さい者とは、貧しい者、弱い者、寄る辺なき者、社会から見放されている人たちでしょう。こうした人たちの必要に応えることでイエスに出会います。ところが、右側に分けられた人たちの誰一人、そのようなことをした意識も記憶もありません。この物語のもう一つのポイントです。

この物語を聞くと、くそまじめな人たちは「貧しい者、弱い者の必要に応えなければならぬ」「小さい者たちへの愛の行為こそ」キリスト者の務めだと受け取ります。よい行いをすることに自分を縛ってしまいます。その結果、不自由で、ごちない、自意識過剰の人間が造られてしまいます。それは左側に分けられた人たちです。自分の信仰や行いの縛=しほりからも解放されることが、イエスによる自由への招きです。「父は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」(マタイ5:45)。イエスに示された神の愛は、すべての垣根、区別、壁を超えています。

日本キリスト教団浦河教会

週報

No.35 2020年11月29日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043